

令和 3 年度 堀江小学校 関係者評価報告書

大阪市立堀江学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度も「安心・安全」「学力・体力の向上」について、学校はさまざまな取組を行っており、よくがんばっている。それぞれの目標に対する指標をある程度達成しており、この最終評価は妥当である。

教職員の年間の長時間労働時間の削減についても取組んでいる。

2 年度目標ごとの評価

子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

日頃から学校全体で情報を共有し、児童理解に基づく支援と指導に努めた。児童数の増加が著しい中でも、人数が多いことを言い訳にしない丁寧な教育活動をするように努力と工夫を行った。問題対応があった際には、管理職も交えて学年で組織的な対応を行うことができた。保護者とは、連絡をとれる関係を築くことができています。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のために、異学年での活動がしにくい状況があり、児童会でのたてわり活動が実施できないなど学年を超えた交流を育むことに苦労した。

いじめに関しては、学期 1 回のいじめアンケートをもとに、児童の実態を把握し、聞き取りを丁寧に行った。このことが重大ないじめ問題の未然防止につながっている。

遅刻や欠席の多い児童に関しても、生活指導部を中心に学校全体で情報を共有し共通理解を図り、保護者や関係諸機関との連携、家庭訪問に取り組んだ。

挨拶に関しては、昨年と比較して挨拶をする児童が増えた。全校朝会での継続した挨拶についての講話と毎朝の登校時のあいさつ指導により、徐々に定着しつつある。さらに丁寧な挨拶ができるように指導を継続していきたい。

「学校のきまりや約束を守っているか」は生活アンケートの結果では 95%の児童が守っていると答えている。しかし、実態を見ると廊下の歩行や時間の順守、登下校の方法など細かいところで守れない自己中心的な行動が見られる場面が増えている。

SPS の取り組みとしては、校内研修では、防犯訓練やアレルギー対応研修を行った。また、防災、交通安全への意識を高めるとともに、地域の交通安全について児童が主体的に考えられる研究授業に取り組むことができた。避難訓練は 1 次避難場所を一部の学年が学校に隣接した公園にした。回数を重ねるだけでなく、行方不明者やケガをした児童がいる等、想定を変化させることで、いろいろな場面での避難訓練を行うことができた。

道徳の時間では、年間指導計画に基づいて指導を行うとともに、主体的・対話的で深

い学びを学習のモデルに取り入れることで、児童の自由思考を促し、個性を発揮できる場を設けることができた。それにより、児童それぞれが個性を認め合える環境を整えることができた。教育活動アンケート「自分には、よいところがある」では、肯定的に答える児童が 85%いる反面、否定的に答える児童も一定数存在する。自己肯定感を高めるように、児童が互いに良いところを見つける機会を設けて、さらに児童の自己肯定がある。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

朝の学習の時間に試写・計算・音読に取り組む時間は取れない時があった。

心の天気の入力など、朝することも増えており、早く登校している児童は朝学習にも取り組むことができるが、登校の遅い児童は、朝学習する時間が少ない現状がある。

日常的に ICT を活用した授業を実施し、実践事例の蓄積に努めることができた。さらにルーブリックを活用した評価にも取り組み、授業の中で、「学習の振り返り」や「自分の意見」をノートやワークシート等を書く活動なども取り入れ、何を学習したのか明確にした。

JAET の全国大会では、先進的な取り組みにチャレンジし、一人一台端末を有効な活用についての充実した取り組みを公開することができた。

また、OPPA を取り入れ自己調整学習の取り組みについても進め、主体的・対話的で深い学びの推進に努めることができた。

プログラミング学習への取り組みについては十分とは言えなかった。

Global Time」については、毎回実施をできている学年もあれば、取り組もうとしているが学年の行事等から毎回の実施は難しいと感じている学年もある。

外国語の文化に触れる活動については、講師を招き外国の文化に触れる学習を実施できた学年もあれば、コロナ禍ということで中止になった交流もあった。

工事終了に伴い、外で元気よく体を動かす児童の姿が多くみられるようになった。運動器具の整備充実により、体育授業での児童の待機時間が減り、活動時間を確保することができている。シナプソロジーの取り組みにより、体を動かすことが好きと答えた児童が増えたり、以前よりも集中して授業を受けている児童が増えたりした。

教育活動アンケートの「学校は体育の授業だけでなく、休み時間の外遊び、運動のすすめなど、子どもの体力向上に努めている」の項目において、肯定的な回答が、中間（9月）よりも7ポイント向上している。

【その他】

以下の項目により、長時間勤務の削減につながった。

- ・学年内で役割を分担することで、学年会議などをスムーズに進めることができた。
- ・スクールサポーターの活用で、余剰の時間を生み出し、教材研究や子供との時間、打ち合わせの時間等に有効活用できた。
- ・一人ひとりが効率的に仕事をするという意識を高めることができた。

一方、コロナ対応により、新たな業務の追加や、行事変更・再検討により、負担は増加した面もある。

臨時休業の影響だけでなく、働き方本校における残業時間の絶対数は減少しており、職場におけるストレス度は前年比で大幅に減少している。

3 今後の学校運営についての意見

○ 今年度取り組んでいる「児童の実態や欠席状況の把握と共有」「スクールライフノートの活用」などを継続し、学校全体で児童の情報を共有し取り組む。学習として「いじめ」や「相手の対場に立つことや人を思いやる」といった児童の心が成長するような学習に触れる機会を増やす必要がある。

○ 全体で生活目標を周知する機会が少ないため、テレビ放送や各学級で周知するなど手立てとして必要である。また、ほりえ安心・安全ルールの有効活用。見える場所に掲示し、職員や児童への周知と徹底する。

児童が学校の課題を考え「ルールを守ろう」と啓発できるように委員会と連携しながら取り組む。

○ 避難訓練は、火災、地震、津波を想定して行っているが、来年度は学校安全（外傷予防、犯罪予防）の観点での訓練も取り組む必要がある。どの時期にどの学習と合わせてカリキュラムを進めていくべきかなど、引継ぎも含めて年度当初に計画を立てる必要がある。本校として何を目標として、「災害安全」「交通安全」「生活安全」それぞれの学習を進めていくのかを改めて考える必要がある。

○ 全教職員で全員の子どもを見ていく。ただ、日々の授業や行事等の忙しさ、コロナ対応等や時間割の調整が難しく、交換授業ができにくいところもあったので、年度当初から計画をたてて交換授業を実施する。主体的に活躍できる場を多く設けることで、児童が自主的に楽しく学校生活を創り出すことができるようにする。

○ 1人1台端末を活用した授業を効果的に行ってきたが、端末持ち帰りの家庭学習も実施する必要がある。

○ 朝学習の時間の使い方は、児童の実態だけに左右されるのではなく、校内で柔軟な基準を決めて行う。課題解決型で取り組む機会を作る。朝の学習時間は校内研究と関連させた取り組みを入れるなど、全校的な取り組みとして活性化させる。

○ シナプソロジーの取り組みは学年によって差がでないように、全員が一定の指導ができるように、資料等を整える必要がある。運動器具の充実により、体育倉庫内が整理されていないことが多く必要なものが取り出しにくいいため、体育倉庫の整理整頓を誰もが心がけていく。運動量の確保が今後も課題となるため、新型コロナウイルスの状況を見ながらできる限りの運動環境作りを企画する。